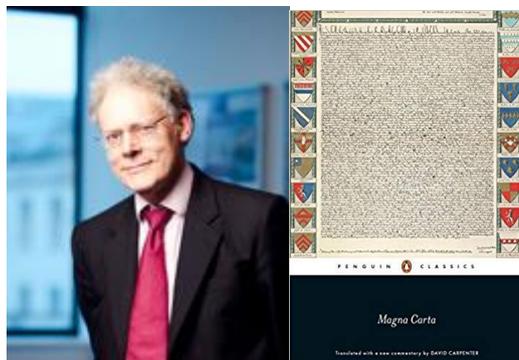


関西大学文学部 学術講演会



デイヴィッド・カーペンター教授

(英国ロンドン大学、キングズ・カレッジ、中世英国史)

講演：マグナ・カルターその歴史的意義、新視角と新資料

日時：2018年10月17日(水) 午後2時40分～4時10分

会場：関西大学、千里山キャンパス、第1学舎1号館「A502教室」

マグナ・カルタは1215年に、テムズ川のほとりラニミードの草地で、国王ジョンと諸侯との間に結ばれた一種の国制に関する取り決め文書です。2015年にはその800年記念行事が英国各地、世界各地で行われ、カーペンター教授はそれらにおいて多くの講演を行いました。今回は大英図書館に収められている2種の「原本」の解読結果をも踏まえて、新視角からの歴史的意義が語られる予定です。

講演は英語で行われ、質疑応答の時間も設けられます。日本語レジュメを用意します。

司会：朝治啓三（関西大学文学部）

カーペンター教授の著作の一部

- ・ *The Battles of Lewes and Evesham* (1987)
- ・ *The Reign of Henry III* (1996)
- ・ *The Struggle for Mastery: Britain 1066-1284: The Penguin History of Britain* (2003, paperback 2004)
- ・ ‘Archbishop Langton and Magna Carta: his contribution, his doubts and his hypocrisy’, *English Historical Review*, cxxvi (2011), 1042-1065.

主催：関西大学文学部